

ーリスクコミュニケーションー 「放射線・放射性物質について」の開催結果

平成31年3月1日（金）中丹広域振興局において、放射線・放射性物質が農林水産物等をはじめ食品に及ぼす影響について正しく理解し、災害等緊急時に的確な対応ができるよう、放射線・放射性物質の基礎知識等について、学び、意見交換するリスクコミュニケーションを生産者団体や行政等関係者13名の参加により開催しました。

京都医療科学大学教授 大野和子氏を講師に、「放射線・放射性物質の基礎知識と食品への影響について」の話題提供等の後、参加者によるグループワークを行い、「消費者が思い込みで不安になっている点を説明いただけた」、「緊急時には冷静な対応と正確な情報提供が大事だとわかりました」などの意見がありました。

今後も放射線・放射性物質のリスクコミュニケーションを実施し、正しい知識の普及に努めます。

記

- 「放射線・放射性物質の基礎知識と食品への影響について」
講 師：京都医療科学大学教授 大野和子 氏
- 「京都府における食品の放射性物質検査等の取組を紹介」 京都府
- 3グループに分かれ意見交換
- 日 時：平成31年3月1日（金）13時30分～15時30分
- 場 所：京都府中丹広域振興局 第1会議室
- 参加者：13名

講演の様子



【アンケート集計結果】

- ・説明内容がわかりやすかった
5点満点で、平均4.3点
- ・放射線・放射性物質に対する理解が深まった
5点満点で、平均4.3点

【意見交換やアンケートから】

- ・食品中の放射性物質の基準値が十分に安全に配慮した数字で、安全と危険の境界値ではないことがわかった。
- ・基準値等について一端すり込まれた誤った認識は取り除くのが大変なので、冷静な時に話し合い正しく理解しておくことが大切だとわかった。